

●JICA国内研修ケンパ訪問記 VOL.19 防災行政管理者セミナーⅡの神戸編
OJAMA-SHIMASU たけだみこ



今回の紹介する研修は、兵庫 県神戸市を拠点に行われる「防災行政管理者セミナー」。自然災害が多発する日本は、過去の被害の経験と教訓を踏まえて、防災体制の整備に努めてきた。近年、世界的に自然災害が増える中、特に開発途上国は甚大な被害に見舞われている。この研修では、そうした途上国の防災対策・災害対策に携わる行政官らが、日本の防災体制を学び、自国の対策の課題を把握し、改善を図ることが目的だ。防災協力力を高めるJICA兵庫と、アジア地域で多国間防災協力を推進するアジア防災センターが連携して実施している。今年度は12カ国15人の研修員が参加。また、「南東欧防災対策コース」と共同で実施され、セルビアとマケドニアの研修員4人も参加した。私たちが訪れた日は、小川雄二郎・富士常葉大学教授の指導による「防災タウンウォッチング」の実習が行われた。午前中は、3つのグループに分かれて神戸市灘区の住宅街を歩き、災害に弱い点、強い点などを探す。午後は、集めた情報を地図上で整理し、問題点と対策、その対策を誰が担当のかなどをまとめ、グループごとに発表。こうした活動を通して、研修員たちは、被害を軽減するために住民の防災意識の向上が重要であることを学んだようだ。